4 講師の先生から一言

研修講師：平山（ひらやま） 猛（たけし） 氏

（株）トライローグ　代表取締役
福岡女子大学　非常勤講師
日本ファシリテーション協会災害復興委員会 委員長

本事業は前身となる「かごしまシニア人材育成活用事業」から数えて 5 年目となりますが、地域の高齢者が主体となって毎年様々な取組が進められていくことに、鹿児島県の地域の力を感じています。またそこには、地域での話し合いにファシリテーターとして関わり、取り組みがうまく運ぶように後押しして頂いている行政・社協の方々の存在が大きかったのではないかと確信しています。

今年度、とても印象的だったエピソードがありました。本研修に参加された行政の職員で、人材育成基礎研修終了後に、「ファシリテーションって難しいですね」と話しかけて来られた方がいらっしゃいました。翌日の実践研修では、地域の高齢者の方々に混じって話し合いに参加されていましたが、実践研修を終えて、「今日の話し合いで、ずっと課題に感じていたことの解決の道筋が見えてきました」と嬉しそうに話をされていました。また、半年後のフォローアップ研修でお会いした際には、実践研修で出されたアクションプランを実現するために、関係部署と連携しながら、地域の方々と一緒に取り組まれたこと、実際に取り組んでみると、思ったように進まずに軌道修正しながら前に進めていったことをご報告いただきました。

ファシリテーターとは話し合いの進行役という認識が一般に拡がってきていますが、日本ファシリテーション協会では、ファシリテーションとは「人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう舵取りすること」と定義しています。地域の中においては、ファシリテーターとは、地域の人々のコミュニケーションを円滑にし、課題解決のプロセスを促進する役割だと私は考えています。前述の行政職員の方は、まさに地域のファシリテーターとしての役割を体現されたのではないかと思っています。この事例を私なりに分析すると、行政や社協の方々が地域でファシリテーションする際のポイントは、以下の 3 点だと考えます。

① 地域の力を信じ、住民をエンパワーする
　地域の中の“これやりたい”“こうしよう”という想いを引き出し、勇気づけること
② 垣根を越えて、連携・協働する
　縦割りの組織の壁を越えて連携すること、地域での限界を感じる時には、地域外や他セクターと協働すること
③ 失敗から学び、住民と共に成長する
　取組を丁寧にふりかえり、上手くいったこと/いかなかったこと、次はどうすればいいかを住民とともに話し合うこと

今後、さらに鹿児島県内の行政・社協の中にファシリテーションのスキルとマインドを持った職員が増え、地域の中にファシリテーションが根付いていくことが、地域で暮らす高齢者の社会参加の促進に繋がっていくと信じています。今年度の研修にご参加いただいた、姶良・伊佐地域、大隅地域（曽於地区）、大島地域（奄美大島・喜界地区）で取り組まれたことが、次年度以降も継続され、地域がさらに発展していくことを願っています。